



大谷石の魅力为全国のみなさんへお伝えする大谷石研究会の広報誌

大谷石の建造物を巡るツアーガイド

宇都宮市役所景観みどり課と大谷石研究会とのコラボレーションで、今年も大谷町の建造物を巡るバスツアーを行いました。

NPO法人大谷石研究会 会員 中川 享子

3月4日(土)、大谷を代表する小野口家住宅・屏風岩・かやぶきの家(渡邊家住宅)の3カ所を巡るツアーが行われました。参加者は、50名を超える応募者から抽選で選ばれた9名。市役所から1名と、当研究会から佐藤公紀さんと私が案内役として同乗。この日は宇都宮ケーブルテレビも同行し、編集された約15分の番組はその後1週間にわたって1日7回放送されました。

当日はお天気にも恵まれ好調にスタート。まずは車窓から「カトリック松が峰教会」。運転手さんのご好意でしばらくの間停車して下さり、陽光に輝く教会を眺めることができました。写真でご紹介しながら、ロマネスクリバイバル、鉄筋コンクリ

ートに大谷石張り、ガーゴイルなどの説明をするとなかなかの反応!タ イミング良く宇都宮美術館にて「二つの教会をめぐる石の物語」を開催中で、聖ヨハネ教会や日光真光教会の話題にも触れることができました。いよいよ「小野口家住宅」(国登録有形文化財)へ到着。塩田潔理事長、高橋啓子さん、武井貴志さんが待っていてくださり心強かったです。小野口家は、江戸時代より名主を務めた旧家。母屋を囲むように大谷石造りの建造物6棟と大谷石塀があり、典型的な豪農の屋敷構えを残しています。青白い板橋の長屋門が青空と自然豊かな風景にマッチしてとても美しかった。小野口家の奥様が一つ一つ説明して下さい、参加者の皆

さんは興味深く聞き入っていました。続いて「屏風岩」へ。冠木門を挟んで建つ座敷蔵としての西蔵と穀倉としての東蔵は、まさに石のまち大谷を代表する建物。「新しい積み石工法の、大谷石蔵のモデルハウスの存在だったのでしよう」という言葉に、大きく頷いてくれる人も。この両蔵を手がけた大谷の石材王と称された渡辺陳平さんについての経歴や功績を説明すると、当時の彼の業績の偉大さに驚いた様子。もしも蔵が解放され、地域の発展に大きく貢献した人のちよっとした博物館があったらな...とふと思いました。

最後は通称「かやぶきの家」と言われる渡邊家住宅へ。城山地区市民センターにバスを置き歩いて移動。途中にある陶遊舎という陶芸工房にも興味を持たれていました。すぐに目の前の景色が変わり...、山麓にあ

り茅葺きの母屋を中心に石蔵や納屋が織りなす屋敷構え、石のまち大谷の原風景。「坊や〜いい子だね〜」などの風景ですね」と参加者の中から声が聞こえました。車の行き交う通りを一本入れば、「昔話の世界にワープする」そんな想いにさせてくれる風景です。ご当主でもあり織工芸家でもある渡邊恵美子さんが出迎えてくれました。囲炉裏に火を入れておいてくださり、暖かい火を囲みながらなんとも癒されるひと時。皆さんは茅葺きや木の襖の絵、また私たちがのために展示してくださった素晴らしい数々の織の作品などに見入っていました。門にある世直し一揆に時の襲撃の刀傷にも興味深かったです。バスは予定の見学を全て終えて、無事市役所に到着。参加者の数名はケーブルテレビからインタビューを受けていました。満足いただけただけが少々不安でしたが、好意的な反応で胸を撫で下ろしました。

今回のガイドを通して、改めて大谷石建造物はお金には変えられない宇都宮の宝だと感じました。しかし保全には多大なお金と並大抵ではない労力が必要です。地元にいると見逃しがちなこれらの風景の良さをもっと多くの人に再認識してほしい、そして大切にしていきたい、日本遺産大谷のためにも。



小野口家住宅では奥様が説明をしてくださいました



屏風岩では冠木門前の階段下から西蔵と東蔵を説明



渡邊家住宅では囲炉裏を囲んで